

平成 30 年度第 2 回 あいち多文化共生タウンミーティング開催結果報告書

平成 30 年 11 月 25 日(日)、平成 30 年度第 2 回あいち多文化共生タウンミーティング@豊橋を開催しました。今回のタウンミーティングは本来、9 月 30 日に開催する予定でしたが、台風 24 号の接近に伴い延期をして実施しました。休日にもかかわらず、近隣に居住されている日本人県民及び外国人県民の方、市町の国際交流協会の方、日本語教室ボランティアの方等、20 名の参加者の皆様にお集まりいただきました。誠にありがとうございました。開催結果を以下にまとめましたので、御覧ください。

開催概要

テーマ 「多文化防災～仙台に学ぶ防災 災害時にも外国人県民と共に助け合うために～」

場 所 豊橋市総合福祉センターあいつピア 研修室

時 間 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

当日の流れ

- 1 愛知県の多文化共生について（説明者 愛知県多文化共生推進室職員）
- 2 基調報告（報告者① 小川ニア氏/インドネシア出身
豊橋市国際交流協会災害時ボランティア/赤十字ボランティア指導員）
（報告者② 杉尾美恵子氏/ブラジル出身
豊橋市国際交流協会災害時ボランティア/赤十字ボランティア指導員）
- 3 ワークショップ

1 愛知県の多文化共生について

まず初めに、本県の外国人住民の状況や、災害時における外国人県民支援の取り組みとして、本県では震度 5 強以上の地震が発生した場合などに、「愛知県災害多言語支援センター」を設置し、愛知県国際交流協会とともに運営することを、説明しました。また、2011 年 3 月の東日本大震災以来、外国人は支えられる側だけでなく、支える側にもなることが認識され始めていることを紹介しました。

2 基調報告

日頃から豊橋市災害時通訳ボランティア、赤十字ボランティア指導員として活躍されているお2人から、「地域社会の一員として」というテーマで、基調報告をしていただきました。お2人からは、なぜ災害時に命を救う知識や技術を学び、共に暮らす外国人住民や日本人住民を支援する災害時通訳ボランティアなどを目指そうと思ったのか等をお話いただきました。以下はお2人からお話いただいた内容の要約です。

報告者① 小川ニア氏/インドネシア出身

友人から誘われたことがきっかけで、豊橋市災害時通訳ボランティアを目指しました。私は日本語に自信がないので、研修を受け、認定試験に合格できるかとても不安でした。しかし、今思うと、認定試験に向けて勉強する過程で、日本語を学ぶことが出来たし、日本の災害のことも分かったし、地域に住む人とも交流ができたので良かったですと思っています。無事、ボランティア



に認定されたことで自分の日本語能力や、自分自身に自信がつき、赤十字ボランティア指導員の検定にも挑戦、合格することができました。通訳やボランティア指導員というのは、「日本語が良くできる人」というイメージがありましたが、決して完璧な日本語は必要ないと思います。日本で暮らす多くの外国人に挑戦してほしいです。私は、これからも、周りの力を借りて、災害時ボランティアとして活動を続け、多くの方に災害に関する知識を多くの人に伝えていきたいと思っています。

報告者② 杉尾美恵子氏/ブラジル出身

私は、日本に来て 25 年近く経ちました。自分が住んでいる地域で、地域のために何かできないかと考え、豊橋市国際交流協会に行き、そこで紹介してもらったことがきっかけで豊橋市災害時通訳ボランティアや赤十字ボランティア指導員を目指しました。私の住んでいる豊橋市には、多くの国の方が住んでいます。そうした方に、日本語が分からなくても良いから、地域と一緒になにかできないか考え



ることを伝えたいと思い、今日はお話をしています。私のように、通訳ボランティアになって地域に貢献するという手段もあるけれど、日本人も外国人も、「まずは、近所の人と挨拶をする。」という簡単なところから地域に貢献できると思います。日本語が全く分からない外国人でも、挨拶をされたら嬉しいし、「こんにちは」は分かると思います。挨拶をすれば、顔の見える関係が築け、災害時にも助け合えると思います。

3 ワークショップ

東日本大震災の時に、実際に避難所にいる「日本人」と「外国人」の間で実際に起きた問題をテーマとしたワークショップ教材を使用しました。言語や文化の違いから起こる誤解や行き違いについて、解決の方法や、どうすればそのようなことが起こらなかったかなど、活発な意見交換が行われました。



話し合いを受けて、「自分の立場で日頃からできること」や「今後、行政や他と連携してやりたいこと」などをグループごとにまとめ、発表していただきました。以下にその内容を紹介します。

○まとめ

・普段から、近所の人(外国人日本人に関わらず)と良くコミュニケーションを取っておくことで、難しい言葉が通じなくても、被災したとき、助け合おうとする姿勢が生まれると思う。日常の挨拶など、小さなコミュニケーションを積み重ねていざという時に備えたい。

・定期的な交流の場が大切。今回のタウンミーティングのように、他地域での被災経験から学ぶ場を定期的に開催してほしいし、そういった場に積極的に参加していきたい。

・自分は外国人なので、日本語を学び、日ごろから日本人と積極的にコミュニケーションをとりたい。また、災害時に備えたマニュアルが多言語であればいいと思ったので、翻訳等、語学力を生かし、できる範囲で役に立ちたい。

・外国人の中には、“地震”について、経験したことがなく、“地震が起きたらどうなるのか”“避難所とはなにか”など、なぜ防災を考えなくてはいけないのかわからない人が大勢いると思う。そうした外国人に、災害時どんなものを用意したらいいか、地震とはそもそも何か、避難所とはそもそもなにかを教える講習があるとよいと思う。

・外国人が働いている会社の人も一緒に防災訓練を行うことが大切であると思う。そういった訓練がもしあれば、積極的に日本人も外国人も参加できるよう働きかけていきたい。

・毎日、顔と顔を合わせて「挨拶」をすることが、いざという時のためにも大切だということが分かった。

・自分は外国人だが、「防災について学ぶ」というのは、すごくハードルが高いと感じる。例えば、BBQをしながらや、花見をしながらなど、楽しみながらできる工夫があると参加しやすいので、そういう機会を考えたい。

・日本に住む外国人には、同じ国や地域の人とコミュニティがある。コミュニティに日本人が入ってきてほしい。

各グループの発表を受けて、最後に基調報告をしていただいた杉尾様から一言いただきました。

災害時にも助け合うために、日本人も外国人も関係なく、仮に日本語が上手く通じない人が相手でも、出会う人と挨拶をして、顔の見える関係づくりをすることからはじめましょう。それは、「地域のため」にもなるし、「自分自身のため」にもなると思います。今日ここに集まった皆さんが、挨拶をすることから顔の見える関係づくりをする輪を広めましょう。

アンケート結果(一部抜粋)

※回答数 13 名

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。

チラシ	4
県のホームページ	0
県の FaceBook	0
知人からの紹介	1
新聞	0
その他	1
無回答	2

(←市町村国際交流協会、県からのメール)

2 前半の基調報告はいかがでしたか？感想をお聞かせください(一つ選択)

① とてもよかった	9
② よかった	4
③ ふつう	0
④ よくなかった	0
⑤ 全くよくなかった	0

2-1 感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

① 楽しかった	12
② つまらなかった	0
③ 活動を進める上での参考になった	6
④ 新しい内容を聴くことができた	4
⑤ 聞いた事がある話ばかりだった	1
⑥ 多文化共生社会づくりに興味がわいた	5
⑦ 多文化共生社会づくりのヒントを見つけることができた	3
⑧ その他	0
⑨ 無回答	0

3 後半のワークショップはいかがでしたか？感想をお聞かせください(一つ選択)

① とてもよかった	7
② よかった	6
③ ふつう	0
④ よくなかった	0
⑤ 全くよくなかった	0
⑥ 無回答	0

3-1 感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

① 楽しかった	11
② つまらなかった	0
① 活動を進める上での参考になった	8
② 新しい内容を聴くことができた	4
③ 聞いた事がある話ばかりだった	0
④ 多文化共生社会づくりに興味がわいた	3
⑤ 人脈を広げることが出来た	5
⑥ 多文化共生社会づくりのヒントを見つけることができた	5
⑦ ⑧その他	0

- 4 今後、タウンミーティングをよりよいものとしていくために、御意見があればぜひ教えてください。
- ・もっとたくさんの方が参加したらいいと思います。
 - ・災害や防災は、日本人外国人が共通して考えなくてはいけないことだと思います。
 - ・このタウンミーティングがあることを、もっとたくさんの人たちに知らせてほしい。
 - ・異業種連携や、国内、国外の災害体験者たちとの交流も計画してください。産官民学商連携で！
 - ・様々な方と知り合うことが出来て、大変貴重な時間となりました。ありがとうございました。

おわりに

今回のタウンミーティングを通して参加者の皆様から頂きましたご意見は、今後関連する施策を進める上で参考にさせていただきます。改めて、参加して下さった皆様ありがとうございました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、昨年度3月に策定した「愛知多文化共生推進プラン 2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしております。日頃、多文化共生に関心を持って活動していただいている方も、そうでない方も、どなたでも参加していただくことができます。

今年度は残り1回開催をします。多くの皆様の御参加をお待ちしています。



愛知県多文化共生シンボルマーク

多文化共生の社会づくりについて
広く県民に親んでもらうため、
2013年度に決めました。